

# 熱中症と 腎不全

熱中症は、高温多湿の屋内外において、体温調節バランスが障害され、高体温となる病気です。スポーツや肉体労働中に発生する労作性の熱中症に加えて、体温調節機能の低下した高齢者・基礎疾患のある方では、高温多湿の屋内・日常生活の中でも起こることがあります。

最重症であるⅢ度熱中症では、意識障害や肝・腎機能障害、血液凝固異常などの臓器不全により死に至る場合もあります。この場合には入院が必要となりますが、熱中症の初期治療においては物理的冷却と脱水症の補正が大切です。高齢者の方で高血圧・心不全のために利尿薬や降圧剤などを服用している場合、容易に脱水症、シヨックとなるため注意が必要です。

体温調節の障害で高体温となった結果、熱による直接作用や脱水症によって腎臓の血流が急激に低下し、急性腎不全(AKI)となる場合があります。尿量が低下し血清クレアチニンが上昇、血液の酸性化、高カリウム血症を起こすと一時的な透析療法が必要になります。

もともと慢性腎臓病(CKD)のある方ではより注意が必要です。また、骨格筋の壊死・変性をきたす横紋筋融解症(運動会の綱引きなどの過激な運動やアルコール過飲が誘因となる)を合併すると筋肉の分解産物のミオグロビンが腎臓に閉塞してAKIを起こし易くなります。

済生会八幡総合病院

腎センター 部長

医学博士 安永親生